



松浦 英夫 議員

## 障害者数の水増し問題について

**問** 今般、発覚した中央官庁や自治体等における「障害者雇用数の水増し」問題について強い憤りを覚える。まさに障害者差別そのものである。

**答** 今回の事案について、自治体の長としてどのように受け止めているのか。

**問** 公共機関は率先して障害者を雇用すべきであり、こうした事態になったことは誠に遺憾である。障害者雇用政策を推進する立場として非常に残念に思う。

**問** 宿毛市での障害者雇用促進法に謳われている雇用率を問う。

**答** 宿毛市全体で、二百七十二人中七人の雇用で雇用率は二・五七％である。

**問** 宿毛市は宿毛市振興計画の中で、ノーマライゼーションの理念に基づき、障害者福祉に取組むとしているが、今後の取組みについて問う。

**答** 雇用・就労の充実は、障害者が社会参加をし、地域で自立した生活を営む上で非常に重要と考える。引続き、障害者の就労支援及び働く場づくりに積極的に取組む。

## 宿毛市庁舎問題について

**問** 宿毛市庁舎の建設問題について、市を二分・三分する様相である。いかなる理由でこのように早急に、今議会で結論を出さなければならぬのか。

**答** 九月定例会に議案を提案したいと申し述べてきた。災害から市民の皆様を守り、被災後も宿毛市で住み続けて頂く為に災害に強い庁舎を建設したい。

**問** 宿毛市はどのような目的で、小深浦の土地を購入していたのか。

**答** 小深浦の高台用地については、発災後に一次避難する高台整備を目的に購入した。

**問** 庁舎の高台移転に伴う地域経済へおよびす影響について調査したのか。

**答** 庁舎移転に伴い、地域経済にどのような影響があるか調査は実施してない。

**問** これまで示してきた予算規模で庁舎は高台に建設出来るとお考えか。予算の後出しはないのか。

**答** 最初から、全てをしつかりと決めて提案できれば一番良いが、建設する中で、より良いものを作る為に若干増減がある。

**問** 全体の造成費用は十億円であるが、概算建築費では、按分して一億八千万となっている。現時点でどのような施設が建設されるのか、まったく不透明である。市民に対して、総事業費を少なく見せる為に、作為的に作られたのではないか。

**答** 現時点では保育園の建設について進めている。残った土地については一部売却なり、

県等に使っていただきたい。

**問** 津波発生時における参集率については、どのように想定をしているのか。

**答** 参集方法の調整、検討する中で参集率について調査をしたい。



高倉 真弓 議員

## 新庁舎建設地の選定について

**問** 小深浦に決めた経緯、判断覚悟を問う。

**答** 災害に対しての庁舎の役割を考えるに当たっては、実際に東日本大震災の被災地では庁舎が被災したことによる復興の遅れにより結果として、人口流出が止まらず、大幅な人口減となった。国は自治体の庁舎建設に対しては、原則補助しない例外として津波被害に対応した庁舎建設を行う

場合は緊急防災・減災事業債を活用し事前復興対策を講じることを進めている。防災・減災事業を緊急に実施するために借りられる起債である。次世代につながる安心安全の宿毛市構築のために安全な高台に有効な財源を活用して、南海トラフ地震発災後も全ての宿毛市民に対して迅速な対応を行うため、考え抜いた結果である。皆さんと一緒にしっかりと考えていきたい。

**問** まちづくりの全体構想が見えないため不安や疑問が出ている。計画の一端でもあれば問う。

**答** 近く決定される予定の高速度道路のルートなど、今後のまちづくりが大きく影響を加味した都市計画マスタープランの改定は早急に進めなければいけない。市民直結の窓口業務を担保した機能は、このエリアに残しながら、公共交通のネットワークの機能の充実を図る。林邸を初めとして江戸期の町割り、神社お寺などを活用、歴史文化を存分に生かしていく。宿毛小中学校の敷地の一部に岩村通俊の胸像を再建し公園化する。本町通りに東京の企業のサテライ